

# デザートフラワー

「女性に対する暴力をなくす運動」(毎年11月12日~11月25日)にちなみ、今年は女性性器切除(FGM)の廃絶を訴える映画「デザートフラワー」(2009年/ドイツ・オーストリア・フランス合作)の上映会を開催しました。たくさんの方にご来場いただき本当にありがとうございました。

皆様からいただいたアンケートからご意見・ご感想の一部を紹介させていただきます。

映画「デザートフラワー」をご覧になっていかがでしたか?



嫌と感じることを素直に自分で受けとめ、それを言葉にすることが、その人の人生を助けると痛感した(20代女性)

映画を観ながら考えさせられる時間となった(40代女性)

性的な課題は、周囲の社会状況が変わっていかないと困難なところがあるが、誰もが人間として生きやすい社会づくりに努めたい(60代以上男性)

素晴らしい映画に感動。こうした風習や女性に対する暴力がなくなことを願う(50代女性)

非常に衝撃的で、今回初めて風習について知ったが、これは広く世界に知らしめて無くしていくことがとても大事だと思う(60代以上女性)

性教育のひとつとして、若者に知らせてほしい。人権・命・生き方・人生にふれる深い題材だった(60代以上男性)



# STORY

アフリカの貧しい家庭で生まれ育ったワリス・テイリー。

13歳のとき、父親にお金と引き換えに結婚をさせられそうになったことをきっかけに、彼女は家族のもとを離れることを決意する。

広大な砂漠を命からがらたった1人で抜け出し、やがてロンドンへたどり着いたワリスは、故郷とは真逆の刺激に満ちた大都会で孤独な路上生活を送っていた。

そんなあるとき、一流ファッションカメラマンにスカウトされたことで彼女はショーモデルへと劇的な転身を遂げる。

やがて名実ともに世界的トップモデルとなったワリスだったが、華やかな外見とはうらはらにその胸中には衝撃の過去が秘められていた……。

世界中が共鳴した衝撃と感動のリアル・シンテシラストーリー

『デザートフラワー』は、「VOGUE」など多くの一流ファッション誌の表紙を飾り、数々のコレクションで活躍した世界的トップモデル、ワリス・テイリーのベストセラー自伝本『**砂漠の女テイリー**』（1999/草思社）をワリス本人の監修のもとで映画化した作品である。

コムズ2階  
図書コーナーで  
貸出中です!



映画「デザートフラワー」の1シーン

